



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

根拠のない自信を持つ

今の君たちを指す言葉として、「Z世代（10代から20代後半）」という言葉聞いたことはありませんか。この世代は、「コスパ・タイパ主義」「チャレンジしない」などと世間から言われたりします。私の実感としても、君たちに関わる中で感じるのは、思春期のあたりまえ以上に「人の目をとても気にする」というところもあります。また、そういう自身の状況に疑問を感じていなくて、自分の意見をもたないのが正しい選択と思い込んでいる感じもします。例えば、ある生徒に何か聞くと、すぐに答えず、横の友だちと顔を見合わせるがあります。三者面談でも同じようなことがあります。生徒は保護者の顔を見ながら話すのです。おそらく、周りとは違った意見は言いたくなかったり、目立ちたくなかったりするのかもしれませんが。私は、話している際にこのような態度であると、ちょっと残念な気持ちになります。

こうした特徴の形成には、教育の影響はかなり大きいといえます。君たちの多くは、幼少の頃から、「いい子＝何もしない手のかからない子」でいるように言い聞かされていることがあります。受け身がしみ込んで、「何も悪いことはしないのがいい子」というような考えになっていきます。だから、失敗さえしなければいいんだというマインドになり、「いいこと」もしくくなる。これは、失敗が許されない社会の空気に敏感に反応し、若いゆえに、素直にそれに感染しているということです。また、傷付きやすいメンタル面も、ほめられる経験と叱られる経験の少なさが、そうさせている面が大きいと思います。私はそれが嫌だから、赴任当初から、善行者に対して「学校長表彰」を行っています（下枠参照）。

では、どういった社会環境かという、「お客様扱いをされる」ことです。ビジネスと直結する現代社会では、サービス業に限らず、学校でもお客様のよう扱われることがあります。だから叱られることが少なくなります。でも、叱る場面は当然あります。ただ、その時、叱られるということは、相当ヤバいことをやったという考えになり、ちょっと叱られたら、それは大きな失敗と思い込んだりします。そのため、とにかく失敗しないように振舞うようになります。

お客様扱いだと、人からしてもらえばっかりで、自分から行動を起こすことには、不安感を持ちます。確かに新しいことにチャレンジする時には不安は付きものです。でも、私は、その不安に何か明確な根拠はあるのかと言いたいのです。おそらく明確な根拠は言えないはずで、行動しないことを、行動不可能に転嫁するための言い訳にしている気がします。理詰めで動いていると思われるビジネスの社会でも、時に厳密な因果関係がなくても、“やってみるか”という何となくの納得感で行動し、苦難を乗り越えることも多いと言います。ならば、逆に自信を持つにも根拠はいらないと思うのです。もちろん見通しをもつことも大事ですが、何事においてもまずは一歩を踏み出すことが肝要なのです。特に、経験が少ない若い君たちは、なおさらなのです。行動しなければ何も始まらないのです。その結果がどうだったかで、次の行動を決めていくだけです。私は、できない理由を必死に考えるより、**根拠のない自信をもってほしい**と思っています。不安に思っ何もしないより、根拠のない自信をもってチャレンジする方が、君たちの先の将来につながると思うからです。

私は、これからものびのびと行動できる学校づくりをみなさんと一緒につくっていきたいと思っています。高校3年生は、これまでの学校づくりありがとうございました。卒業しても母校を見守ってください。

【学校長表彰】2021年度より学校外での善行者を表彰している。本年度は現在7名を校長室で表彰させてもらった。都度、HPで紹介している。
※本年度は高齢者への親切行為、地域のボランティア等。